

# 明星

<http://www.kameyama.mie.jp/kblog/shirakawa/>

亀山市立白川小学校 第12号

令和6年9月11日(文責:西川)

「であい、ふれあい、そして未来へ」 ~自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成~

## 全国学力・学習状況調査の結果より

4月18日(木)に6年生を対象として行われた「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果が、7月末に文部科学省から公表されました。本調査は「子どもたちの学力・学習状況を把握して、今後の授業や生活習慣の改善に役立てること」を目的として行われています。なお、本調査によって測ることができるのは、あくまでも「学力」の特定の一部、学校の教育活動の一側面のみであることは、ご承知おきください。

今回の調査結果から見えてきた成果や課題を、学校・家庭・地域で共有しながら、今後の教育活動に活かしていきたいと考えています。

以下、本校の結果とその分析および今後の取組について紹介します。



## 教科に関する調査の結果より

### 教科の平均正答率

	国語	算数
本校	64	65
三重県	67	62
全国	67.7	63.4

本年度も、国語と算数の2教科で調査が行われました。本校の各教科の平均正答率は、算数科では三重県および全国の平均を上回りましたが、国語科では下回る結果となりました。白川小学校で取り組んでいる算数科を中心とした授業改善の成果が現われていると考えられます。

算数科では、全員が16問中9問以上正答できたのに対し、国語科では14問中10問以上正答した人と5・6問しか正答できなかった人とで、二極化が見られました。

各教科の結果について、もう少し詳しく紹介します。

### 各教科の領域別の平均正答率

国語	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語の特徴 や使い方に 関する事項	情報の 扱い方に 関する事項	我が国の 言語文化に 関する事項
本校	53.3	60.0	73.3	55.0	80.0	100.0
三重県	58.7	68.2	70.2	64.2	86.5	73.6
全国	59.8	68.4	70.7	64.4	86.9	74.6

上の表は、国語の出題内容を系統的に分類して領域別に分け、それぞれの平均正答率を示したものです。

トータルでは県平均を下回っているものの、領域別に見ると子どもたちの強みと課題が見えてきます。「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」の2つの領域では、県や全国の結果を上回りました。日常的に読書に親しみ、登場人物の相互関係や心情などについて描写をもとに捉えたり、人物像や物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりすることはできているとみられます。

一方で、他の4領域ではすべて県や全国の結果を下回りました。特に、「言語の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」の領域に課題が見られます。具体的には、「言語の特徴や使い方に関する事項」の知識・技能を問う設問で、漢字の書き取りに関する問題（2三「きょうぎ」を「競技」、「なげる」を「投げる」に書き直す）の間違ひが多かったです。習った当時は書いていたはずの漢字を忘れてしまっているのは、復習不足です。人は誰しも時間が経てば、覚えたことも記憶があいまいになっていくものです。忘れないためには、定期的に復習をして、忘れていたところを覚えなおす必要があります。それを何度も繰り返すことで記憶が定着し、自らの知識・技能として身につけていきます。これは、「漢字」に限った話ではありません。児童の皆さんは、家庭での復習にしっかりと取り組んでいるでしょうか？ また、「書くこと」の領域における思考・判断力や表現力を問う設問では、「2二[高山さんの文章]の空欄に入る内容を、[高山さんの取材メモ]を基にして書く」問題において、「高山さんの考えたこと」と「高山さんが下級生から聞いた取材メモにある言葉や文章」のどちらかを書く必要があるのに、どちらか一方しか書いていなくて不正解となっている人が多かったです。この設問では、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にし、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか」をみています。自分の考えが伝わるように文章を書くためには、事実と感想・意見とを区別して書くなどして書き表し方を工夫することが大切です。下の正答例のように、

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができることだと思います。(100字)

事実としての下級生の言葉と自分の考えとを区別して書き表すには、日頃から事実と感想・意見とを分けるよう意識して記述する体験を重ねておくことが必要です。また、領域に関わらず、問題形式が「選択式」の問題に対して、「短答式」「記述式」の問題の正答率が低かったです。

これらのことから、国語における本校の子どもたちの課題として、「漢字の書き取りの定着不足」「複数の条件に合うように自分の考えを文章にまとめる力の不足」といった、「書く力」の不足があげられます。

算数	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
本校	70.0	55.0	80.0	55.0
三重県	64.5	65.8	49.7	61.0
全国	66.0	66.3	51.7	61.8

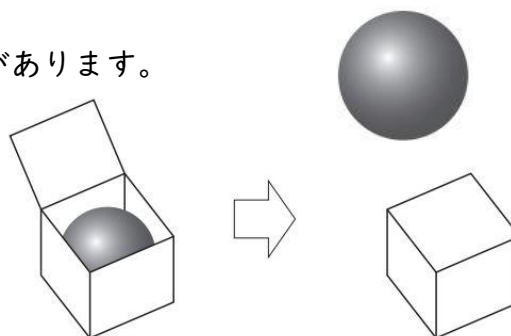
次に、算数の領域別平均正答率を見てみましょう。

算数では、トータルでは県平均を上回っているものの、領域別に見ると、やはり強みと課題が見えてきます。

「数と計算」「変化と関係」の2つの領域では県や全国の結果を上回っており、問題場面の数量関係を捉えて立式して正しく計算したり、「速さ・道のり・時間の関係」について理解したりすることはできているとみられます。しかし、「図形」「データの活用」の2つの領域では県や全国の結果を下回っています。「図形」の領域では、図形を構成する要素である面と面、辺と辺等の位置関係に着目しながら、立体図形を見取り図や展開図で表したり、逆に、見取り図や展開図から立体図形を構成したりすることができるようにすることや、図形を構成する要素に着目して図形の体積の求め方を考えたり、図形の性質について考察したりすることができるようになることが大切です。児童の回答状況を確認すると、立体図形を見取り図や展開図で表して相関関係をとらえることは、ほぼできていました。ところが、次の問題では、全員が不正解でした。

3(3) 直径 22cm の球の形をしたボールがあります。

このボールがぴったり入る  
立方体の形をした紙の箱の  
体積をしらべます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何  $\text{cm}^3$  かを求める式を書きましょう。  
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要は  
ありません。

正解は「 $22 \times 22 \times 22$ 」ですが、児童は「 $22 \times 22$ 」「 $22 \times 3$ 」や「 $3.14$  を使った計算式」を回答していました。直径 22cm のボールをぴったり入れるためには、箱の一辺が 22cm 必要だと考えて、箱の体積を求める式を考えれば良いのですが、22 という数字には着目しているにもかかわらず体積の計算に結びついていなかったり、球にとらわれて  $3.14$  を用いようとしたりしていました。落ち着いて考えればできるはずですが、問題の内容・意図を正しく読み取って、これまでに学習した内容と関連付けて考えることに課題がみられます。また、「データの活用」の領域では、「5(3)折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く」問題において、「年代の読み取り」と「回数の違い」という2つの条件のうち一方しか満たさずに不正解となっている人が多かったです。国語と同様に、複数の条件に合うように、自分の考えを文章にまとめる力に課題が見られます。

これらのことから、算数における本校の子どもたちの課題として、「適用問題や発展問題をたくさん解いて、問題を読み取る・既習内容を活用する・解答を文章にまとめるといった経験の不足」があげられます。

## 児童質問紙調査の結果より

児童質問紙調査は、子どもたちの生活や学習の様子などをアンケート形式で問う調査です。「生活習慣等に関すること」「豊かな心の育成に関すること」「学習環境や授業等の教育活動に関すること」への設問があります。以下に本校の結果の一部を示して特徴をまとめてみました。

※ 数値は、各質問に「当てはまる・している」「どちらかといえば、当てはまる・している」と回答した割合の合計(%)です。

【基本的な生活習慣等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
朝食を毎日食べていますか	100	93.5	93.7
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	100	82.1	82.9
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	100	91.6	91.6

基本的な生活習慣に関する質問項目への肯定的回答の割合が、すべて100%でした。これからも、規則正しい生活ができるように心がけるとともに、ご家庭でも子供たちの生活習慣の見届けをよろしくお願ひします。調査が4月時点のもので、もしかすると夏休みの間に生活リズムが乱れてしまった人もいられるかもしれません。もし、そのような人がいましたら、早く生活リズムを整えなおすようにしましょう。

【自己有用感、達成感、挑戦心、社会への関心等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	100	82.4	84.1
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	100	90.6	89.9
将来の夢や目標を持っていますか	100	81.6	82.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	80.0	93.1	92.7
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100	97.1	96.7
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	40.0	74.5	75.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100	96.1	95.9
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	60.0	83.8	83.5

「自分には、よいところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童の割合がそれぞれ100%でした。また、将来の夢や目標を持てている児童・いじめを否定する児童・人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合も、それぞれ100%でした。その気持ちをこれからも持ち続け、夢や目標の実現に向かって努力を続けていってください。一方で、「自分と違う意見について考えることを楽しいと思う」児童の割合が、県・全国を大きく下回っています。自分と違う考え方を受け入れたり、自他の考え方を比べることで新たな気づきを得たり、自らの成長につなげていくことは、これからの子どもたちの人生にとって必要不可欠なことです。中学・高校と自分の世界が広がり、様々な人と触れ合う機会が増えていきます。相手を理解しようと努力することが大切です。また、地域・社会をよくするために自分にできることを考えている児童の割合も、県・全国に比べて下回っています。地域の方々が、児童の皆さんのために様々な場面で協力いただいていることを思うと、少しさみしい結果ですね。

【学習習慣、学習環境等に関すること】

質問項目	本校	三重県	全国
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	60.0	50.6	54.6
健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	80.0	80.9	82.3
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	60.0	80.9	80.8
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	60.0	91.6	91.6

学習内容で分かった点・よく分からなかった点を見直して次の学習につなげている児童の割合が、県・全国を下回っています。定期的に復習をして、学習内容を覚えなおしたり、理解不足なところを学習しなおしたりすることが必要です。また、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる児童の割合も、県・全国を大きく下回っています。前述したように、互いの考えを大切にしながら、より良い方法を見出したり自らの成長につなげたりする力を育てて欲しいものです。

## 今後の取組について

各教科の調査結果から見てきた本校児童の課題から、「自分の考えを文章にまとめる力を伸ばすこと」「練習問題をたくさん解いて、問題の内容・意図を正しく読み取り、学習した内容を活用する経験を積むこと」「反復学習による基礎・基本の定着の習慣づけ」に取り組む必要があります。学校では、朝の短時間学習や授業の始めなどを利用して漢字の書き取りの復習や算数の練習問題に取り組んだり、自分の考えを文章にまとめる活動を増やしたりして課題改善に取り組めます。ご家庭では、家庭学習(自主学習を含む)の習慣づけをよろしく願います。